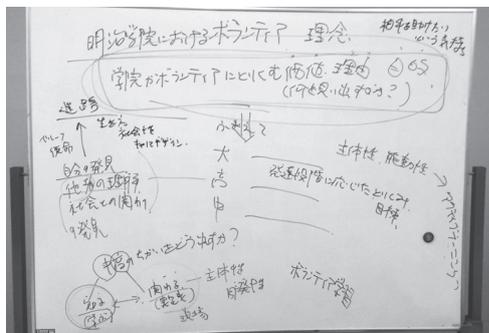


## 特集3 20周年を迎えるにあたって

ボランティアセンターは2018年度に設立20周年の節目の年を迎える。本学ボランティアセンターの設立のきっかけとなったのは、1995年に発生した阪神・淡路大震災である。このとき、約350人の学生が支援活動に自発的に参加した。個人の判断で関西へ足を運ぶ状況を見ていた森田武理事長(当時)が、ボランティアセンター設立を提言し、支援活動に参加した学生・教職員も賛同した。本学では創設者J.C.へボンが生涯貫いた精神“Do for Others”を受け継ぎ、震災発生以前から大学公認・非公認を問わずボランティア団体が存在していたが、センター設立により質の高いボランティアを提供できると考え、ボランティアセンター準備委員会が発足した。1年間の準備期間を経て、1998年11月にボランティアセンターがまずは横浜キャンパスに開設された。

設立当初の取り組みとして挙げられるのが2001年の「ソニーマーケティング学生ボランティアファンド」である。資金面はソニーが担当し、事務全般は本学が担当するという、これまでに例のない産学協働による全国の学生団体への支援が関心を呼んだ。また、2003年度の文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された「大学教育における社会参画体験の取込と実践～ボランティアセンターによる教育支援の試み～」は、ボランティアセンターの取り組みが内外に評価されたものであったといえる。

このほか2005年秋学期からスタートした明学グッズの本体価格の一割を「ボランティアファンド」としてセンターの活動に活用する取り組みは、明学グッズを購入することで誰もが気軽にボランティア活動に参加できるという仕組みでもある。このファンドを原資として資金面で明学生を支援する「ボランティアファンド学生チャレンジ賞」が2007年に生まれた。また、2011年の東日本大震災では、本学が持つ学内外のネットワークを活用し、いち早く現場のニーズに応えるべく復興支援活動を開始した。「Do for Smile@東日本」プロジェクトと命名したこのプロジェクトは7年経過した現在も支援内容を変えながらも活動を継続している。同年に開始した、主にこれからボランティア活動を始めようと考えている新生を対象とした1日社会貢献プログラム「1 Day for Others」は受け入れ団体の協力を得て、初年度参加者245名から2017年度には762名へと増加し、参加学生だけでなく、他大学からもこの取り組みに対して関心が寄せられている。さらにはセンターの活動を支える学生メンバーによる8つの活動セクションは教職員・ボランティアコーディネーターとともに幅広い活動を行っている。近年では大学による「MG Decade Vision」、明治学院による「教育ビジョン」におけるボランティアセンターの役割も視野に入れ、活動を行っている。



教育ビジョンにともないボランティア  
理念を中高大の発達段階ごとに検証する

現在のボランティアセンターがあるのは、学内外のさまざまな方からご支援やアドバイスをいただいたおかげである。設立20周年を迎えるにあたり、大学組織の一つとして存在するボランティアセンターとして、活動を振り返り、行く末を見据えたメッセージを学内外に向けて発信すべく準備を始めている。比較的歴史の浅い大学ボランティアセンターの老舗として、節目の年にふさわしい足跡を残したいと考えている。

(職員 波多野洋行)